

第5次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物
The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

ブッポウソウ

Eurystomus orientalis cyanocollis Vieillot, 1819

中村浩志（一般財団法人中村浩志国際鳥類研究所）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会 鳥類分科会



令和8（2026）年3月



特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：中村浩志，2026．ブッポウソウ．環境省（編）第5次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物，pp. 314-318．

Citation: Nakamura, H., 2026. *Eurystomus orientalis cyanocollis* Vieillot, 1819. In: Ministry of the
Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 314-318.

ブッポウソウ

Eurystomus orientalis cyanocollis Vieillot, 1819

カテゴリー判定結果		絶滅危惧 I B 類 (EN)		B1ab	
基準 A: —	基準 B: EN	基準 C: —	基準 D: —	基準 E: —	
B1. 出現範囲が 5000 km²未満であると推定されるほか、次の兆候が見られる。 a) 生息地が過度に分断されているか、5 以下の地点に限定されている。 【過度に分断】 巣箱かけが熱心に行われている地域以外の多くの地域において個体数が減少し、分布の孤立化が進んでいる。 b) 出現範囲、生息地面積、生息地の質、生息地点数、成熟個体数のいずれかに継続的な減少が推定・予測される。 【判断理由】 岡山県や広島県等では、ブッポウソウの繁殖のための巣箱を設置する活動が実施されており、実際にブッポウソウの繁殖に利用されている。ブッポウソウの巣箱の設置がされなくなると、ブッポウソウの繁殖成功数は減少することが予測される。					
評価分科会： 鳥類分科会					

概要

かつては、本州、四国、九州に広く分布していたが、個体数の減少により現在は限られた地域に局所的に分布するのみである。現在の繁殖つがい数は、約 550 つがいで、その約 9 割は人のより設置された巣箱で繁殖している。巣箱かけにより、中国地方と長野県では、最近繁殖数の回復が見られる。

基礎情報

【形態】

全長約 30 cm、翼長 18～20 cm。雌雄同色。頭部は黒褐色、体は濃い青緑色。嘴と脚は赤い。飛ぶと翼の白斑が目立つ。

【生活史】

5 月初めの連休の頃に夏鳥として日本に渡来する。一夫一妻のつがいを形成し、5 月下旬から 7 月上旬に樹洞や人工構造物の穴に 3～5 卵産み、雌雄交代で抱卵する。抱卵日数は 22～23 日間で、育雛日数は約 20 日間。9 月には南への渡りを開始する。

【生息環境】

里山環境など低山帯の林に隣接した開けた環境に生息。60 年から 70 年前には、神社仏閣の境内での繁殖が広く見られ、各地の繁殖場所が国・県・市町村の天然記念物に指定されたが、現在これらの環境での繁殖ではほとんど見られていない。岡山県や広島県などの中国山地では、人家周辺の木製電柱に開けられた穴に営巣していたが、現在ではコンクリート製などの電柱にかけられた巣箱で繁殖している。日本海沿岸の多雪地では、低山のブナ林の自然の樹洞や巣箱で現在も繁殖が少数見られる。長野県南部の他、四国、九州では川にかけられた橋や鉄橋などの人工構造物の穴でごく少数が繁殖している。

生息環境区分：	【陸域_中標高地 低標高地】森林 【陸域_平地部】市街緑地
---------	----------------------------------

国土地域区分：	(2) 里地里山・田園地域
---------	---------------

【分布域】

ユーラシア大陸の東端及び東南アジアの島々を中心に、インドから日本、オーストラリアにかけて分布。日本には、夏鳥として本州、四国、九州に渡来する。

現在の生息状況

【分布域の現況】

70 年以上前までは、本州、四国、九州に広く分布していたが、現在では東北から関東周辺で繁殖が見られる場所は皆無に近い状況である。また近畿地方においても、この鳥の繁殖地として有名であった奈良県などでは現在繁殖が見られない。山梨県では、身延町などに少数繁殖するのみである。現在、本州中部でまとまった数が繁殖しているのは、長野県南部の天竜川沿いと北部の千曲川沿いの栄村である。栄村に続く新潟県にも以前はまとまった数が繁殖していたが、現在ではごく少数が繁殖するのみである。

【生息地の現況】

巣箱かけが熱心に行われている中国山地や長野県では、確実に繁殖数の回復が見られているが、それ以外の多くの地域では数が減少し、分布の孤立化が進んでいる。

【個体数の現況】

現在、最も多くの個体が繁殖するのは、岡山県、広島県、鳥取県といった中国山地であ

る。この地域では、一時は絶滅寸前まで数が減少したが、その後電柱への巣箱かけによって、現在で約 400～500 つがいに回復している。九州と四国では、ごく限られた場所にわずかに繁殖しているのみである。近畿、東海、関東、東北では、最近繁殖が見られなくなった。本州中部から東日本にかけて、現在最も多く繁殖しているのは長野県で、県の南部と北部合わせて 40 つがいが繁殖している。山梨県には、かつてはまとまった数が繁殖していたが、現在は身延町などに数つがいが繁殖するのみである。日本で繁殖するつがい数は、すべてあわせても 550 つがいほどである。

存続を脅かす要因

全国的には、餌となる昆虫が多く生息する広葉樹林や水辺環境の減少、社寺林周辺の宅地化等による里山環境の悪化、営巣に適した樹洞の減少が、個体数の主な減少要因と考えられる。

要因の区分：	(過去)	森林伐採，洞窟の消失や環境悪化
	(現在)	森林伐採，洞窟の消失や環境悪化

特記事項

2010 年に広島県と鳥取県で捕獲した 10 羽に軽量記録装置（ジオロケータ）を装着して放鳥し、翌年このうちの 6 羽を再捕獲してデータ解析を行ったところ、広島県で繁殖した 1 羽がボルネオ島で越冬していることが確認された。

旧レッドリストカテゴリと掲載名

第 4 次 2020:	ブッポウソウ	<i>Eurystomus orientalis calonyx</i>	EN
第 4 次 2019:	ブッポウソウ	<i>Eurystomus orientalis calonyx</i>	EN
第 4 次 2018:	ブッポウソウ	<i>Eurystomus orientalis calonyx</i>	EN
第 4 次 2017:	ブッポウソウ	<i>Eurystomus orientalis calonyx</i>	EN
第 4 次 2015:	ブッポウソウ	<i>Eurystomus orientalis calonyx</i>	EN
第 4 次:	ブッポウソウ	<i>Eurystomus orientalis calonyx</i>	EN
第 3 次:	ブッポウソウ	<i>Eurystomus orientalis calonyx</i>	EN
第 2 次:	ブッポウソウ	<i>Eurystomus orientalis calonyx</i>	VU
第 1 次:	ブッポウソウ	<i>Eurystomus orientalis calonyx</i>	R

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和 6 年度末時点）

【青森県】重要希少野生生物(B ランク)，【岩手県】絶滅危惧Ⅱ類，【秋田県】準絶滅危惧(NT)，【山形県】絶滅危惧ⅠA 類(CR)，【福島県】絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)，【栃木県】絶滅危惧Ⅰ類(A ランク)，【群馬県】絶滅危惧ⅠA 類(CR)，【埼玉県】絶滅危惧ⅠA 類(CR)(繁)，【東

京都（本土部）】絶滅危惧ⅠA類(CR),【東京都（南多摩）】絶滅危惧ⅠA類(CR),【東京都（西多摩）】絶滅危惧ⅠA類(CR),【神奈川県】絶滅危惧Ⅰ類(繁殖期),【新潟県】絶滅危惧Ⅱ類(VU),【富山県】絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN),【石川県】絶滅危惧Ⅱ類(VU),【福井県】県域絶滅危惧Ⅰ類,【山梨県】絶滅危惧ⅠB類(EN),【長野県】絶滅危惧ⅠA類(CR),【岐阜県】絶滅危惧Ⅰ類,【静岡県】絶滅危惧ⅠA類(CR),【愛知県】絶滅危惧ⅠA類(CR)(繁殖),絶滅危惧Ⅱ類(VU)(通過),【三重県】情報不足(DD),【滋賀県】絶滅危惧種,【京都府】絶滅寸前種,【兵庫県】Aランク,【奈良県】絶滅寸前種,【和歌山県】絶滅危惧ⅠA類(CR),【鳥取県】絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN),【島根県】絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN),【岡山県】絶滅危惧Ⅰ類,【広島県】準絶滅危惧(NT),【山口県】絶滅危惧ⅠA類(CR),【徳島県】絶滅危惧ⅠA類(CR),【香川県】絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN),【愛媛県】絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN),【高知県】絶滅危惧Ⅱ類(VU),【福岡県】絶滅危惧ⅠA類(CR),【佐賀県】情報不足種,【長崎県】絶滅危惧ⅠA類(CR),【熊本県】絶滅危惧ⅠA類(CR),【大分県】絶滅危惧ⅠB類(EN),【宮崎県】絶滅危惧ⅠB類(EN-r),【鹿児島県】絶滅危惧Ⅰ類

保護に係る法令指定状況（令和7年度末時点）

鳥獣保護管理法，都道府県条例指定種【長野県・滋賀県・京都府・鳥取県・大分県】

参考文献

- 飯田智彦，2001．人工構造物への巣箱架設によるブッポウソウの保護増殖策．日本鳥学会誌，50(1): 43-45.
- Nakamura, H. and T. Tabata, 1988. Why does the Broad-billed Roller *Eurystomus orientalis* bring Strange Objects to the Nestum Jpn. J. Ornithol, 36: 137-152.
- 中村浩志・田畑孝宏，1990．ブッポウソウの雛の食物．日本鳥学会誌，38(3): 131-139.
- 中村浩志，2004．甦れ、ブッポウソウ．山と溪谷社，東京．
- 植田睦之・植村慎吾，2021．自然環境保全基礎調査 全国鳥類繁殖分布調査報告 日本の鳥の今を描こう 2016-2021 年．176pp. 鳥類繁殖分布調査会，東京．

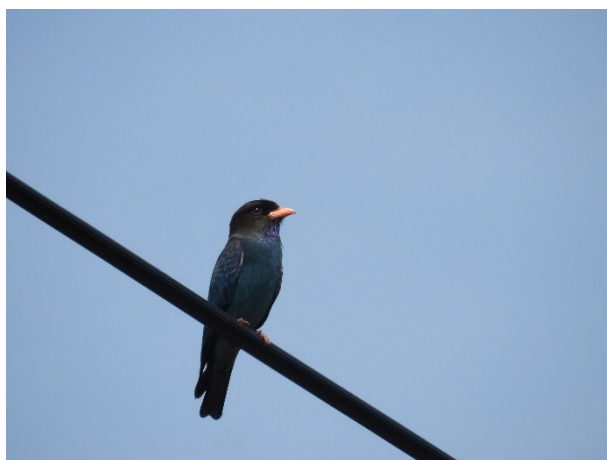
アセスメントサマリー（Assessment summary）

Eurystomus orientalis cyanocollis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Eurystomus orientalis cyanocollis* is listed as EN under criteria B1ab.

B1. Extent of occurrence estimated to be less than 5,000 km², and estimates indicating at least two of a-c:

- a. Severely fragmented or known to exist at five or fewer locations.
- b. Continuing decline, observed, inferred or projected, in any of the following:
 - (i) extent of occurrence

(ii) area of occupancy (iii) area, extent and/or quality of habitat (iv) number of locations or subpopulations (v) number of mature individuals	
Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Mid-altitude area, Low-altitude area】 Forest 【Terrestrial/Freshwater area_Plain】 Urban green area
Threat types:	Logging and wood harvesting, Loss of caves and environmental deterioration
Law designation status for conservation	Wildlife Protection, Control, and Hunting Management Act. Prefectural Ordinance-Designated Species 【Nagano・Shiga・Kyoto・Tottori・Oita】.



執筆者:	中村浩志（一般財団法人中村浩志国際鳥類研究所）
Author:	Hiroshi Nakamura

公表年月：2026 年 3 月